校長通信（教職員版）第34号　２０１８．３．２６

本の紹介

【１】はじめに

短い春休みですが、入試業務や成績処理などが終わり、少しだけ余裕のある時間が取れるかもしれません。そんな春休みに読書をしませんか？という呼びかけをしたいと思います。次年度に向けていろいろと考える充実した時期でもあります。そんなときに、新たな知識や知見に触れることも大事です。

ご存知のように私はこの２年間兵庫教育大学大学院の教育政策リーダーコースで学んでいました。３月１４日に修論も無事認められ、３月２３日には学位記授与式に出席してきました。この２年間の学びで、一番学んだことの一つは、文献を読むことでした。院で出会った先生方の中で私が師事した先生は、指導教授の諏訪教授以外に、三人おられます。早稲田大学卒の押田准教授、リクルートから大学に転身した毎野准教授、そして東北大学の青木准教授です。東北大の青木准教授は、東大出身です。４０代の教育学者では、第一人者といわれている方で、青木先生から様々な文献の紹介をしていただきました。正直、「これぞ、The　学者！」と思わせる先生です。何を聞いても必ず丁寧に返事をよこしてくれます。サイボウズというアプリで私と青木先生のやり取りを読む他の院生が「めちゃめちゃ勉強になる、ついていくのが必死」とコメントするほど、素晴らしい先生でした。

今、教育は転換点を迎えています。教師受難の時代です。なぜなら「私達が、受けてこなかったような教育を、今度は私達が教育しなければならない」からです。今、私達に求められるのは「イノベーション」ではないでしょうか?そのためには、まずは自分自身が学ぶということが必要です。そして、もっとも手っ取り早い学びが読書だと思います。

それでは、本を紹介していきましょう。今まで紹介した本もここでまとめて紹介したいと思います。

【２】アクティブラーニング関係

（１）高大接続改革の本質―どんな高校生が、社会で成長するのか②
―「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題―
溝上慎一責任編集　京都大学高等教育研究開発推進センター／河合塾　編　学事出版　２４００円

この本の著者溝上教授のことは、何回も紹介したと思いますので、割愛します。この中で語られている内容は、溝上教授が河合塾と連携して２０１３年から１０年間高校２年生の若者を追跡調査する「１０年トランジション調査」の第２弾です。私は、教授がこの本を執筆する前の研究発表会に去年参加してきました。その内容は、生徒向け校長通信№6（H２８．１０．１３発行）で紹介しています。

この調査のポイントは、いかに高２の秋が大事かということです。この時点で将来のビジョンを描いている生徒は、大学に行っても伸びるということです。逆に漫然とクラブ活動だけをしている生徒は、大学に行っても伸びないということが調査結果から示されています。河合塾の学び未来PASSを次年度から導入しますが、この学び未来PASSの開発にも溝上教授の研究が活かされています。

（２）アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性―学びと成長の講和シリーズ第１弾　溝上慎一著　東信堂　１０００円

この本は、理論家の彼としては珍しい本で、実際に神奈川の桐蔭学園、山形県の庄内総合高校に関わったALの授業実践をもとに書かれています。まだ私は読んでいません。しかし、目次をみると、私がこの通信でよく紹介するＡＬの肝である

個―協働―個、内化―外化―内化

のことが実践を通じて書かれているように思いますので、現場の先生ほど読んでほしいと思い

ます。溝上教授はこのほかにも色々な学術書を書かれています。アマゾンで検索してみてください。

（3）アクティブラーナーを育てる学校　中原淳東大准教授＋日本教育研究イノベーションセンター著
学事出版　１８００円
ひとはもともとアクティブラーナー　山辺恵理子・木村充・中原淳編著　堤ひろゆき・田中智輝著
日本教育イノベーションセンター　編集協力
北大路書房　２２００円

次は東大の中原淳准教授の本です。中原先生のことも校長通信で紹介したことがあります。彼の話をはじめて聞いたのは、京大の溝上教授とコラボレーションして京大で行われたトランジション研究のシンポジウムでした。高校の教員も対象にした分科会があり、多くの高校教師も参加していましたが、大阪からは校長が数人でしたね。確か４年ほど前のことです。とてもユニークな方で、本もユニーク。表装をみれば彼の個性が分かると思います。その中原先生の本を２冊紹介します。いずれも彼がいかに現場の先生を大事にしているかがわかる、AL を実践している先生を応援するような内容の本です。読んでいて元気になります。

彼は、溝上先生と同じトランジションの研究に携わっていますが、溝上先生が高校と大学に主軸を置いているのに対して、中原先生は大学と社会のトランジションに主軸を置いています。専門は人材開発です。その方面の本も多数出版されています。今の社会に通用する人材をどう育てるかという観点から行き着いた彼の結論が「やっぱり、ＡＬだわ！」というものでした。

さらにもう一冊。これは「大人の学び」を薦める本です。
「働く大人のための『学び』の教科書」－１００年ライフを生き抜くスキル　　かんき出版
１５００円
この本は、布施の同窓会の挨拶で紹介しました。ちょうど同窓会に集うような世代の人たちに読んでほしい本だからです。先生方も人生１００年時代を生きる学びのスキルを身につけてほしいと思います。藤原和博氏が言うように、これからは「坂の上の坂」を意識する時代です。（中原先生は、昨日３月25 日の夜、東大から立教大の教授になるとお知らせ来ました）

（4）ディープ・アクティブラーニング　ー大学授業を進化させるためにー
松下佳代　京都大学高等教育研究開発推進センター編著　勁草書房３000 円

この本も紹介したことがあると思いますが、今もう一度学習することが最も必要な本でないかと思います。今年度約 40%を越える先生がＡＬ型授業を実践されています。それは素晴しいことなのですが、まだまだ発展途上です。何がまだまだかというと、「深い学び」になっていない授業が多いということです。これは、何も布施高校が遅れているということではなく、ＡＬを実践する上で全国の実践者が直面している問題だと理解してください。もともと「深い学び」と「ＡＬ型授業」は別の流れです。それを結合することの重要性を理論的に明らかにしたのが、松下先生です。この本は 2015 年に出版されていますが、この本の執筆者は、その後ＡＬ研究の第一線で活躍されている方々です。次年度〇〇高校にもアドバイザーで来ていただける森朋子先生も執筆されています。

【3】教科関係

次に教科関係の本を紹介します。私の専門外の分野もあり、全てを読んでいませんが、松下先生を中心に、大学教授が推奨する本とご理解ください。

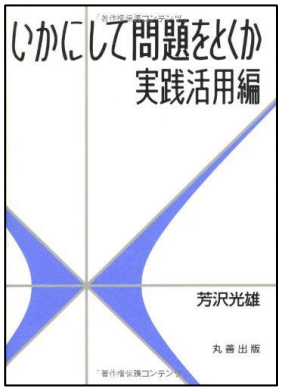
（1）国語科授業を変えるアクティブ・リーディングー＜読みの方略＞の獲得と＜物語の法

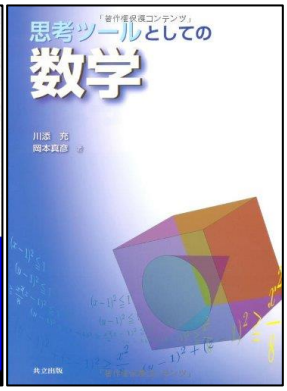
則＞の発見　　佐藤佐敏緒　明治図書　１９６０円
この本は、松下先生の紹介です。「本質的な問」と「永続的理解」をどのように国語教育の中で行えばよいかを中心に小・中の実践例もあわせて書かれています。

（２）思考する歴史教育への挑戦―暗記型か、思考型か、揺れるアメリカ　川上具美著　九州大学出版　3600 円

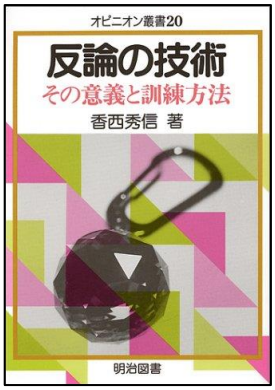
この本はまだ読んでいませんが、是非読みたい本の一つです。最初の紹介には、次のように書かれています。
「本書の目的の一つは、アメリカの歴史教育が目指している歴史的思考力の育成が、実は教室における実践の段階まで浸透していないという現実、つまり歴史科カリキュラムと実践の間に生じている歴史教育上のディシプリン・ギャップに着目し、その背景と要因を探ることにある。」
「歴史的思考力」という言葉さえ、日本の教育現場では馴染みが薄いです。アメリカでは、この歴史教育の転換が、1970 代から提唱され始め、1960 年代から起こった公民権運動やマイノリティの権利拡大を後押しする形になったと著者は書いています。興味がそそられますよね。そそられませんか？

（３）数学の本三冊です
★いかにして問題を解くか　実践活用編　芳沢光雄　丸善出版　1400 円
★数学的思考法―説明力を鍛えるヒントー　芳沢光雄　講談社現代新書　740 円
★思考ツールとしての数学　川添　充　岡本真彦著　共立出版　2200 円

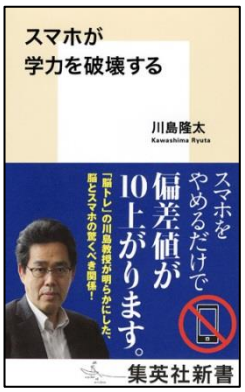




いずれもなぜ数学を学ぶのか、数学を通じてどのような力を養うのかが中心に書かれた本です。私が現場で数学を教えている時は、何を大事にしていたかというと「まずは、分かりやすい授業」でした。それがある程度できるようになると、次に心がけたのが「数学的思考法」です。これは、何も数学だけでの分野で求められる力ではないからです。数学には、論理性が求められることはご存知だと思いますが、それだけではありません。問題を与えられたときの情報分析、ゴールセッティング、そして問題を解く戦略性が必要です。さらに、問題を解く思考力として、「場合を尽くす」「対象性を考える」「図解で解く」など、様々な思考力が必要とされるのです。それを私は、間違った解答をサンプルにすることで、どこで間違ったか、何が足らないかを示して授業をしていました。この本をその時に知っていれば、どれだけ役立っただろうと思います。



（４）小論文指導で紹介した本です。
★反論の技術―その意義と訓練方法　香西秀信著　明治図書　1760 円
★反論の技術―実践資料編　香西秀信著　明治図書 1860 円
★新版論文の教室　戸田山和久著　1200 円　NHK ブックス



これらの本は以前にかなり詳しく紹介したので、ここでは、再度掲載しておくだけにします。

（５）その他の本です。つい最近出版されました。近々読んで生徒にも保護者にも紹介しようと思っているのが、次の本です。

スマホが学力を破壊する　川島隆太著　集英社新書　740 円
この本の帯には、
「スマホをやめるだけで偏差値が１０上がります。
「脳トレ」の川島教授が明らかにした、脳とスマホの驚くべき関係！」
と記されています。仙台市の中学生を対象に行った大々的な調査を元にした本なので、一読の価値はあると思います。

【4】最後に
最後に私が大学院で学ぶ間に読んだ本の一部を紹介します。先生方にはあまり関係ない本があるかもしれませんが、大学院での学びの参考にしてください。

★地方分権と教育行政: 少人数学級編制の政策過程　青木栄一著　勁草書房　4640 円
これは、地方教育行政論のテキストでした。ここから、膨大な量のレポートを書きました。

★地方自治論 -- ２つの自律性のはざまで　北村 亘 (著), 青木 栄一 (著), 平野 淳一 (著)
有斐閣ストゥディア 2052 円
この本は、最近出版された本で、地方自治論のテキストですが、「よくぞここまでコンパクトに且つ理論的深さを担保している」と押田先生と講評した本です。

★市町村教育委員会制度に関する研究―制度改革と学力政策の現状と課題　河野和清著　福村出版　5000 円
この本は、広島大学の河野教授が退官に際し、出版された本で、地方分権改革が教育政策に及ぼした影響を膨大なデータから分析されています。

★公立小・中学校教員の業務負担　神林寿幸著　大学教育出版　2500 円
神林氏は青木先生のお弟子さんです。青木先生いわく「教員の働き改革でまともな研究論文は無い。常に恣意的に意図されたものが多い。その中で、きちんとデータ分析を行い、何が教員の業務負担になっているかを導き出した素晴しい論文」ということです。全部読みました。素晴しい論文です。

★戦後日本の教育委員会―監督権はどこにあったのかー　大畠菜穂子著　頸草書房　5800 円
大畠先生も青木先生のお弟子さんです。日本の教育委員会制度はとにかくややこしい。ご存知ですか?このような教育制度のシステムをとっている国は、日本とアメリカぐらいです。世界的にはとてもマイナーな制度で、多くの国は首長の下に教育政策が実行されています。そのような教育制度についての他の行政組織と対比研究されたのがこの本です。

最後に紹介するのは、公共政策の本です。

★公共政策学の基礎　秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉著　有斐閣ブックス　2600 円

★分裂と統合の日本政治　砂原庸介著　千倉書房　3600 円

★日本の地方政治　二元代表制政府の政策選択　曽我謙悟。待鳥聡史著　名古屋大学出版　4800 円

★アジェンダ・選択肢・公共政策―政策はどのように決まるのかー　ジョン・キングダム著　頸草書房　4800 円

この中で、特に砂原庸介先生の本は面白いです。公共政策のエキスパートです。右に紹介した「大阪―大都市は国家を超えるか」中公新書は、砂原先生が大阪市大時代に大都市研究の成果として出版された本です。大阪都構想を理解するには、もってこいの本だと思います。大都市大阪の苦悩がよく分かります。私がすごいと思う青木先生が「砂原君は、天才だ」と褒めた先生です。

春からは放送大学で科目履修生として１講座受講する予定です。入学金 11000 円、１講座 7000 円、全然高くないですよ。そこにある「知の価値」を思えば！

おまけ！北方大水滸伝！水滸伝 19 巻、楊令伝 15 巻、岳飛伝 17 巻、全 51 巻を３月 24 日に読破しました・・・。漢（おとこ）の生きざま（志をもつ素晴らしい女性もいっぱい出てきます！）をまざまざと見せつけられた 12 年間でした！